

日本科学未来館による地球科学体験イベント（「リアル・ラボ」）の取り組み

An activity of experience-based event

杠 知子 [1]; 櫻井 英雄 [1]; 干場 真弓 [1]

Tomoko Yuzuriha[1]; Hideo Sakurai[1]; Mayumi Hoshiba[1]

[1] 未来館

[1] Miraikan

<http://www.miraikan.jst.go.jp/>

未来館では「友の会」の会員向けのイベントとして研究所等の研究現場を訪問し、最先端の研究現場とテクノロジーを知り、研究者と触れ合う機会を持つ「リアル・ラボ」を実施している。2008年9月27日～28日、海洋研究開発機構/統合国際深海掘削計画（IODP）共催のもと、長崎県佐世保市に錨泊した地球深部探査船「ちきゅう」において、「リアル・ラボ@地球深部探査船「ちきゅう」～“海の上の研究所”で見つける地球の姿～」を開催した。「リアル・ラボ」は未来館の科学コミュニケーターが企画・実施しており、会員からの関心が高いものである。今回は友の会の会員とともに、慶応義塾高等学校の学生2名も参加した。科学技術に関心の高い層に対する科学コミュニケーション活動について報告する。

未来館は、21世紀の新しい知を分かち合うために、すべての人にひらかれたサイエンスミュージアムである。先端の科学技術を活動の中心に据えており、我々の現在を変革し、次の時代を切りひらく大きな可能性をもつ「新しい知」と捉えている。未来館では、さまざまな分野に波及するこの先端科学技術の営みを人間の知的活動という視点から、私たちを豊かにする文化の一つとして社会全体で共有することを目指している。このような目標を掲げて、未来館は様々な展示活動、科学コミュニケーション活動を行っている。

未来館の「友の会」（会員数約34,000人）は、科学技術により深く触れたいという人々のために設けられた組織である。会員向けには、年間181回もの様々な特別イベントを開催し、のべ8,712名が参加している（H19年度）。今回の「リアル・ラボ」では、サイエンス・カフェや一般公開よりも詳細な船内見学ツアーをするなど、関心の高い参加者に効果的なプログラムを取り入れた。また、「リアル・ラボ」への興味・関心をより高める目的で事前イベントの実施、事後には地球科学関連のイベントにて「リアル・ラボ」での体験を参加者自ら発表するプログラムを取り入れることも実施した。「リアル・ラボ」というひとつのイベントで経験した、「ちきゅう」への乗船と研究者との交流という貴重な体験を、多くの人々へ伝えるために実施したこれらの取り組みも併せて報告する。